



「21世紀型教育モデル授業」

～小学生が英語とICTを活用し、ライフサイクルの学習をします～



SSKは2012年4月21日(土)にアメリカンスクール・イン・ジャパン(ASIJ) <http://community.asij.ac.jp> にて「21世紀型教育モデル授業」を行いました。教育におけるICTの利活用を推進している政府関係者や大学の先生方が多数参観されました。モデル授業を見ながらの意見交換の場にもなり、未来の授業のあり方や教育、ICTの有効活用について現実的で具体的な意見や提言がありました。モデル授業に参加した、SSKのインターナショナル・コースの生徒達と西町インターナショナルスクールの生徒達も徐々に打ち解けて、活発な議論や協働作業を行いました。以下今回の授業の紹介をさせていただきます。

授業のテーマ: ライフサイクル

動植物のライフサイクルを学ぶ中で、どのように彼らがライフサイクルを維持し、そのためには**何が必要なのか、どのように維持しているのか**を考察します。そして、生徒たちは自分たちの**衣食住**と彼らのライフサイクルとの関係について考えます。発見、驚き、気付きや疑問を持つことを大切にします。



授業のポイント:

1. SSKの生徒(小学2, 3, 4, 5年生各1名)と西町インターナショナルスクールの生徒(小学5年生3名)の合同授業です。**少人数、複数学年の混成クラス**で、**グローバルコミュニケーション**を体験的に学びます。
2. **英語とICT(プログラミングツール“スクラッチ”)**は学習のツールとして利活用します。日本の生徒にとっては、英語を実践的に学ぶ授業でもあります。**“スクラッチ”**で互いのコンテンツの交換をし、プレゼン資料を作成します。



3. 生徒たちは、**チームで学習**し、共に教え合い、話し合う協働作業と単独作業を組み合わせて行います。



4. 先生は一方的に教授するのではなく、**ファシリテーター**として、生徒と一緒に学び、議論しながら、授業を進行します。

5. 生徒は**プレゼンテーション**を行います。



授業の流れ:

事前授業(別々) : “スクラッチ“の授業 1.5-3時間、“ライフサイクル”の授業 1-1.5時間
SSKの生徒は、英語の授業を6-24時間受講

今日の授業(合同) : ・授業の説明と”ライフサイクル”に関するお話し

- ・調べ学習(40分程度)
- ・“スクラッチ“を使ってプレゼン資料作成
- ・プレゼンテーションの準備
- ・プレゼンテーションと質疑応答
- ・評価とその発表



早稲田大学と青山学院大学の学生サポーターの皆さん

瓜谷理事長と大学教授、科学技術振興機構の皆さん



共催:  特定非営利活動法人スーパーサイエンスキッズ (<http://www.supersciencekids.com>)

Japan ASCD (<http://jascd.org/>)

後援: ACCJ